

Improvisation Basic vol.02 自然なメロディー感を出す為の基本

では、Improvisation Basic vol.02、始めていきましょう。

今回は「自然なメロディー感を出すための基本」として、「コードトーン・アルペジオ」的な音使いでフレーズを構築してみよう、という内容です。

まず、最初のパターンですが、Cキーのダイアトニックコードである、CM7、Dm7、Em7、FM7、G7、Am7、Bm7($\flat 5$)の7種のコードのアルペジオですね。

これらのアルペジオの練習パターンは無数に作れますが、ここでは1つの例として、vol.01のルール2で出した、Cメジャースケール1オクターブのポジション内で完結させています。

譜例1、key=C、コードトーン・アルペジオ(4和音)、1~3弦間サンプル

The image displays seven examples of arpeggio patterns for different chords in the key of C major. Each example consists of a treble clef staff with notes and a TAB staff with fret numbers. The patterns are numbered 1 through 7, corresponding to the chords: CM7, Dm7, Em7, FM7, G7, Am7, and Bm7($\flat 5$). The first example (CM7) includes a dynamic marking of *mf* and a *p* marking. The patterns are designed to be played within the first octave of the C major scale.

弾いてみればわかると思いますが、「スケールポジションを考えながらメロディーを弾く」という観点からはあまり出てこない様な、音の並びと響きになりますね。

次に、上記7種のダイアトニックコードをトライアド(3和音)にした譜例を弾いてみましょう。

譜例2、key=C、コードトーン・アルペジオ(トライアド)、1~3弦間サンプル

The image shows a musical score for S-Gt in 4/4 time, key of C major. It consists of two systems of music. The first system has four measures with chords C, Dm, Em, and F. The second system has four measures with chords G, Am, Bm(b5), and C. Each measure includes a treble clef staff with a melody and a guitar TAB staff with fret numbers. The melody consists of eighth notes and quarter notes. The TAB includes fingerings like (8) and (b5).

こちら、譜例1で使ったポジション(指板上の範囲)内でまとめているので、コードによっては音の並びがオクターブ下に下がったりもしています。

ですが、鳴らしている音自体は、

C(C、E、G)、Dm(D、F、A)、Em(E、G、B)、F(F、A、C)、G(G、B、D)、
Am(A、C、E)、Bm(\flat 5)(B、D、F)

と各コードのコードトーンに準拠しています。

普通に演奏する場合は、使うポジションをここまで指板上の狭い範囲に限定することは少ないと思いますが、あえてこの様にするのも、普段と違うメロディーが出てきて面白いかもしれませんね。

■アルペジオの音の順番変更と組み合わせ

さて、ここまでの譜例は、1度→3度→5度(→7度)と、コード・トーンを低い方から順番に鳴らしたものでした。

これはこれで良いのですが、もっとフレーズのバリエーションを考えて行きたい場合、この順番にとられる必要はありませんね。

鳴らす音の順番を変え始めると、アルペジオの型を含め、凄まじい数のフレーズが作れるので、ここで全てを紹介することは不可能ですが、一例をあげてみましょう。

譜例 3、key=C、コードトーン・アルペジオ、バリエーション

The musical score for Example 3 is presented in two staves. The top staff is a treble clef staff showing a sequence of arpeggiated chords: CM7, Dm7, Bm7(b5), CM7, F, G, Em7, and C. The notes are grouped into triplets. The bottom staff is a guitar TAB staff showing the corresponding fret numbers for each note: 8-7, 8-5, 5-7, 6, 5-7, 5, 7-6, 5-7, 7, 5-8, 7-8, 6, 5-8-7, 8, 7, 5-8, 7-5.

※この譜例のコード表記は、チェンジでは無く、想定しているアルペジオの(型の)コードネームです。譜割りは便宜的なものです。

譜例を弾いてみるとわかりますが、高い音やアルペジオの中間位(3度、5度など)からスタートしてみたりと、色々やっていますね。

さらに言えば、必ずしも、そのアルペジオを構成している音全てを使う必要もありません。(※例えば、元々4和音のアルペジオだったとしても、その4音全てを使う必要は無い)

次に、上記譜例もそうになっていますが、もう少し分かりやすく、複数のアルペジオを組み合わせさせてフレーズを作ってみましょうか。

譜例 4、key=C、トライアドの組み合わせ、1~3弦間サンプル

The musical score for Example 4 is presented in two staves. The top staff is a treble clef staff showing a sequence of arpeggiated triads: C, F, Em, F, C, F, Bm(b5), and C. The notes are grouped into triplets. The bottom staff is a guitar TAB staff showing the corresponding fret numbers for each note: 5, 5-8, 6, 5-8, 5-8, 7, 6, 5-8, 5, 5-8, 6, 5-8-7, 6, 7-8.

※こちらの譜例もコード表記はチェンジでは無く、想定しているアルペジオのコードネームです。

かなりシンプルなパターンですが、この様なランフレーズっぽいものにも活かさせますね。

■スケール的なフレーズ(部分)とアルペジオ的なフレーズ(部分)の組み合わせ

最後に、スケール寄りの発想からくるフレーズと、アルペジオ寄りの発想からくるフレーズを組み合わせたものを弾いてみましょう。

譜例 5、key=C、スケール+アルペジオの組み合わせ

The musical score consists of two staves. The upper staff is in treble clef and contains a melodic line with a dynamic marking of *mf*. It features two measures, each containing four groups of triplets. The first measure starts with a 5 and the second with a 6. The lower staff is in bass clef and contains a fingered arpeggio pattern. It also consists of two measures. The first measure contains the sequence 5-5-7-5-6-8-7-6-5-8-7-8, and the second measure contains 5-8-5-6-5-7-5-8-7-8.

一番最初にも言った様に、こういったアルペジオは指板上で無数に作れます。

それらを挙げていくとキリがないので、このテキストではあえて使う音の範囲(ポジション)を固定していますが、実際の演奏では、必ずしもそうする必要はありません。

使う音の範囲を広げるのも狭めるのも自由ですので、その時々に対応しいフレージングを探していきましょう。

では、今回は以上になります。

ありがとうございました。

大沼